



2/8

地域福祉の向上に役立ててもらおうと、北いぶき農協妹背牛支所を退職した役・職員らでつくる「JA妹背牛支所OB会」は、会の解散に伴い、活動資金の残高187,649円を町社会福協議会に寄付しました。



2/2

妹背牛中学校の生徒会は、能登半島地震の復興支援に役立ててほしいと、町に義援金4万円を寄付しました。寄付金は、日赤北海道支部を通じて被災地復興の活動資金に充てられます。



1/22

北いぶき農協女性部妹背牛支部は、リングプル17キを町社会福祉協議会に寄贈しました。2000年からリングプルの回収を続けており、車いす1台が社協に配備されています。



2/1

危険業務従事者叙勲で、瑞宝単光章を受章した小野史博さんが、町に30万円を寄付しました。元・深川消防署妹背牛支署長の小野さんは「消防活動の発展に」と、話しています。

Vietnam Corner

.....ベトナム コーナー.....

お袋の味が懐かしい 地域おこし協力隊 ズオン・ティ・フォン



やかんでお湯を沸かす風景

子どものころ、私は早く成長して、自分のやりたいことをして、自由な生活を送りたいといつも思っていました。

大人になってからいろいろな所に行って、様々な料理を食

べて気づいたことがあります。一番美味しいのはお母さんの手料理です。日本人の皆さんにとってお袋の味と言えばどんな料理を思い浮かべますか？お味噌汁、煮物、それともカレーですか？世界中の人たちも、自分のために作ってくれたお母さんの料理が一番美味しいと感じるのではないのでしょうか。

私も同じです。ベトナムの北部に生まれ育った私は寒い日に食べる、家庭料理のカボチャスープがとても懐かしいです。貧しい家だったので、子どものころはコンロや炊飯器が

ありませんでした。

お母さんはいつも汗まみれになって、かまどでご飯を炊いてくれました。すごく大変だったと思うけれど、お母さんは私にこう言いました。

「あなたが美味しく食べて健康でいてくれるのなら私はどんなに大変でも大丈夫」

お母さんから言われた言葉は私の心に残っています。いまは家にコンロがありますが、お母さんはまだあのかまどを使っています。親と離れて、日本で一人暮らしをしてから、時々お母さんのカボチャスープを作ります。

お母さんに教えてもらったレシピの通りに調理しても、何か足りないような気がしました。それは、幼いころにお母さんが心を込めて作ってくれた素朴な味わいが私の記憶に残っているからでした。